

2 キャリア教育のねらい

① 幼児児童生徒一人一人のキャリア発達を支援しましょう。

キャリア教育を進める上で最も大切にしなければならない基本姿勢は、子どもたち一人一人のキャリア発達を支援し、きめ細かく温かく支えていくことです。そのためには、子どもたちの実態とその置かれている状況を的確に把握するとともに、子どもたち自身が自己のよさや可能性に気づき、それぞれが夢や希望をもち、その実現に向けて努力する過程を組織的、継続的に指導・援助していくことが大切です。

② 「働くこと」への関心・意欲を高め、学習意欲の向上を図りましょう。

子どもたちは、自分の進路、将来設計、進路の選択・決定に関心・意欲を持つことによって、日常の学習態度や生活態度を大きく変化させます。なぜ勉強しなくてはいけないのか、今の学習が将来どのように役立つかということなどについての発見や自覚が、日頃の学習に対する姿勢の改善につながり、そのことがさらなる新たな発見やより深い自覚に結びついていくのです。このような発見や自覚を促すためには、実際の体験、授業や面談等において、実感として「分かった」という具体的な体験を通して得られていくのです。

③ 社会人・職業人として必要な資質や能力を高めましょう。

キャリア教育は、将来の職業人としての資質や能力を高めるための教育活動でもあります。このため、学校教育では基礎・基本の定着を図る取組みを徹底するとともに、職業教育の素地を培い、専門性の向上に努めるなど、高等学校段階までの学習を、それ以降のより高度な専門的な知識・技能を習得する学習につなげていくことが求められます。

また、将来の職業生活を視野に入れ、子どもたちが情報活用能力や人間関係形成能力等、今後、社会や産業界で一層必要となる能力を身に付けることができるようにしていくことが大切です。

④ 働くことの意義を理解させ、自立意識をはぐくみ、豊かな人間性を育成しましょう。

働くことには、生計の維持だけでなく、成就感や自己実現の喜び、一市民として社会に参画し社会を支えるという意義があります。

教員は、子どもたちが、将来、社会人・職業人としてその社会的役割を遂行していくことができるようになるための支援であるという認識をもって、取組みを進めていくことが必要です。また、子どもたちが他者の思いや苦勞、誇りや心の痛みなどを自らのものにすることによって、豊かな人間性を培うとともに、自分自身への自信や有用感を持つことができるようにすることが大切です。そうしたことを通して、勤勞の尊さ、それぞれの職業・仕事の大切さや社会的役割等の理解を深めていくことができるようにすることが大切です。

